

## 藤井寺歴史探索 遣唐使留学生“井真成”の故郷を訪ねて

日時：2011年10月23日（日） 近鉄南大阪線藤井寺駅10時集合

参加者：9名（敬称略：見本、清瀬夫妻、野田、藪田、中島、布施、安宅、高田）

10月23日（日）は朝から天候に恵まれ、気持ちがいよい日であった。参加者全員が藤井寺駅に集合し、藤井寺ボランティア協会の方々4名（小野会長、荻野さん、樽野さん、衛藤さん）が出迎えて頂いた。点呼をとり今日のガイド役である樽野さんから参観コースの説明を聞き、参加者は歴史探索に出発した。

### ■ハイキングコース（距離は約8km）

近鉄藤井寺駅⇒井真成の石碑⇒葛井寺⇒辛国神社⇒藤本酒造⇒アシュラホール（昼食）

蕃所山古墳⇒応神天皇陵⇒大鳥塚古墳⇒古室山古墳⇒三ツ塚古墳⇒道明寺⇒道明寺天満宮⇒近鉄道明寺駅

主な参観した場所をご紹介します。

#### 1. 井真成の石碑（藤井寺商店街の藤井寺市商工会事務所の前にある）

遣唐使留学生である井真成の石碑が建立されている。井真成の出身は、朝鮮半島からの渡来系民族の葛井（ふじい）氏と井上氏の二説が主流である。井真成の日本名は“葛井真成”か“井上真成”で、留学し中国風に“井真成”と改名したと解釈されている。日本名の葛井氏・井上氏はともに現在の藤井寺市内からでており、井真成は藤井寺出身であることは動かないとされている。

717年の第9次遣唐使団に19歳で留学生として参加したとみられる。同遣唐使団には、阿倍仲麻呂や吉備真備、僧玄昉などが参加、唐に渡った井真成は学問を修め官吏して朝廷に仕えていたが急病のため36歳で死亡したとされる。



井真成の石像

#### 2. 葛井寺（剛淋寺）

古代氏族葛井氏の氏寺として、7世紀後半に建立。西国三十三所観音霊場の第五番札所である。本尊の乾漆先手観音座像は国宝、毎月18日に本尊の先手観音像が公開されている。



葛井寺で

#### 3. 辛国神社

延喜式にも記載されている古い歴史をもち、物部氏の祖を祀ったことに始まる。室町時代に春日の神を合祀し、春日丘にその町名を残す。明治時代に長野神社を合祀した。長い参道は“大阪みどりの百選”に選ばれている。



辛国神社で

#### 4. 藤本酒造

飲んべえが多い今回のメンバーには、格好の参観スポットである。

葛井寺から少し南の旧家が立ち並ぶ一角にある造り酒蔵。大正2年の創業で、やや甘口で旨みのある酒が多い。

中でも原酒“松花鶴”や“雅一”、“玉瑞”、“また井真成から名命した”のいのみなり“が有名である。参加者がそれぞれ試飲し、顔もほろ酔いとなり、ついには買ってしまった。参観コースの最終である道明寺天満宮まで届けて頂いた。



朝からほろ酔い気分で

## 5. アシュラホール

このホールの特徴は何と言っても古代のソリ型運搬具・修羅をモチーフにした外観が目を引く。

機能的には藤井寺市の生涯学習センターとなっており、中には井真成の出身を証明すると思われる石に書いた文字レプリカや、津堂城山古墳で出土した日本最大の水鳥形埴輪や西墓山古墳の埋葬施設の模型などが展示されている。我々は、このホールで昼食をとり、一時の休憩をした。



アシュラホールを背景に

## 6. 応神天皇陵

仁徳天皇陵に次ぐ全国第二位の巨大な前方後円墳で墳丘長425m、後円部直径250m、前方部幅300mで幅60～80mの濠を持つ。5世紀後半に築造され、前方部横の誉田丸山古墳から“金銅製透彫鞍金具”が出土し、誉田八幡宮に所蔵されている。



応神天皇陵前で

## 7. 道明寺（真言宗尼寺：道真の叔母覚寿尼が住職だった）

7世紀中葉に土師氏の氏寺として建立された土師寺を起源とし、建立当初は道明寺天満宮の南側参道付近に位置し、現在も塔心礎が残っている。その後、戦国時代の戦火や江戸時代の石川洪水の荒廃で天満宮の敷地内に移り、また明治時代の神仏分離令で現在の場所に移された。国宝の十一面観音像は正月三が日と毎月18日、25日に拝観できる。



道明寺の入り口で

## 8. 道明寺天満宮

道明寺天満宮は、もともと土師氏の氏神として成立し、後に土師氏の子孫でつながりの深い菅原道真公を祭神に加え、天満宮として成立。宝物館には、国宝である伝菅公遺品の他多くの文化財が所蔵されている。また梅の名所としても有名で毎年2月から3月上旬に開催される梅祭りには全国から多くの参拝客が訪れる。



道明寺天満宮入り口

また境内には修羅の複製品が保管されている。全長8m、全高2mの二種類で、特に全長8mの修羅は、それ自体がかなり重く、どうやって重い石などを運搬したかは謎である。



修羅の復元品

参加して頂いた皆様、大変お疲れ様でした。

(事務局：高田)